

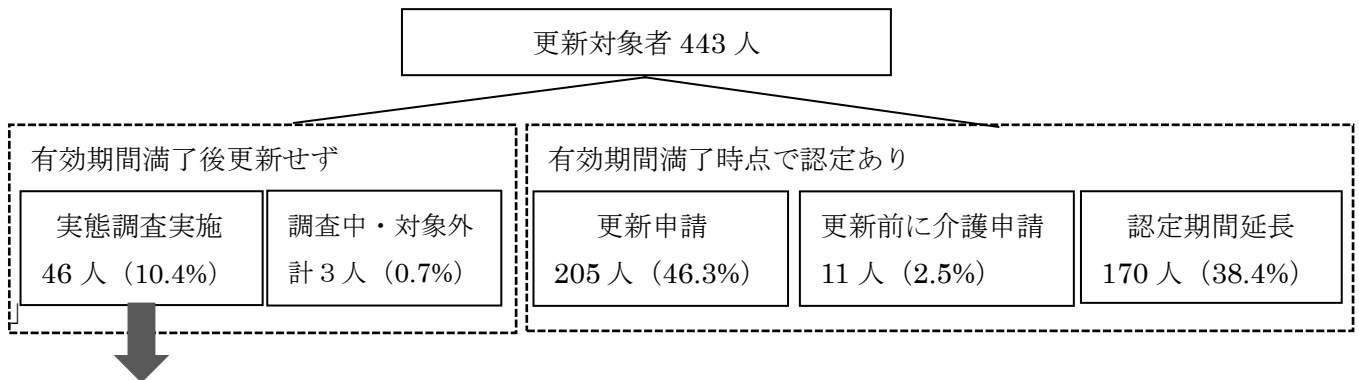
令和3年度介護サービス未利用者の定期的な実態把握結果報告

1 調査期間

令和3年4月から令和4年3月まで

2 調査対象者及び調査時期

前回の介護度が要支援1・2の介護サービス未利用者。令和3年5月末から令和4年4月末に要介護認定の有効期間満了を迎える更新時に、更新申請を行わなかった者に対し在宅介護・地域包括支援センター職員が訪問または電話にて実態把握を行った。



3 調査項目及び調査結果

	質問項目	はい	いいえ	未回答
1	1. この1年間の体調変化がありましたか	10人 (21.7%)	36人 (78.3%)	0
2	1で「はい」と答えた人→それはどのようなことですか ・1年前より体調が改善した (4人) ・1年前に手首に入れた金具を取るため入院、手術した ・変形性両膝関節症の手術を受け、数か月歩くのがふらふらして不安だった ・脊柱管狭窄症で手術 ・膀胱炎で入院、その後回復 ・帯状疱疹 ・疲れやすくなった			
3	身の回りのことをご自身でできますか	45人 (97.8%)	1人 (2.2%)	0
4	世帯構成	ひとり 11人 (23.9%)	高齢者のみ 18人 (39.1%)	その他 17人 (37.0%)
5	生活のお手伝いをしてくれる人はいますか	42人 (91.3%)	4人 (8.7%)	0
6	15分くらい続けて歩いていますか	42人 (91.3%)	4人 (8.7%)	0
7	週に1回以上は外出していますか	43人 (93.4%)	3人 (6.5%)	0
8	普段就労や介護予防事業等に参加していますか	15人 (32.6%)	31 (67.4%)	
	8「はい」の内訳： 就労1人 (2.2%)、コミュニティセンターでの活動2人 (4.3%)、テンミリオンハウス1人 (2.2%)、地域健康クラブ2人 (4.3%)、不老体操1人 (2.2%)、高齢者総合センターの各種講座2人 (4.3%)、保健センターの各種事業1人 (2.2%)、武蔵野総合体育館の各種講座1人 (2.2%)、民間のスポーツクラブ3人 (6.5%)			

	質問項目	はい	いいえ	未回答
9	日常生活の中で、気になるような物忘れがありますか	5 人 (10.9%)	40 人 (86.9%)	1 人 (2.2%)
10	体調が悪い時や災害時などに、手助けしてくれる家族や親戚、知人等がいますか (11は緊急連絡先記入)	43 人 (93.5%)	3 人 (6.5%)	0
12	定期的に通院をしていますか (13は通院先記入)	42 (91.3%)	4 (8.7%)	0
14	定期的に内服薬を処方されていますか	40 (87.0%)	6 (13.0%)	0

4 次回の訪問時期

区分	訪問時期	人数 (割合)
A	1 か月後	0
B	3 か月後	0
C	6 か月後	4 人 (8.7%)
D	1 年後	9 人 (19.6%)
E	実態把握終了	33 人 (71.7%)

- ・次回訪問時期を「C（6 か月後）」とした 4 人は、「15分くらい続けて歩いていますか」「週に1回以上は外出していますか」「定期的に通院をしていますか」の項目において、2 項目以上該当した。

5 訪問時の対応

- ・訪問時、45人の調査対象者に「在宅介護・地域包括支援センターの連絡先」を周知した。
- ・サービスの利用要件に該当する調査対象者12人には「レスキューヘルパー（高齢者緊急訪問介護）事業」、9人には「高齢者安心コール事業」の案内を行った。

6 実態調査後新規申請状況

- ・実態調査を実施した46人のうち、調査実施後要介護認定申請に至った人は2人（4.4%）、死亡した人は1人（2.2%）だった。

申請理由および認定結果内訳：

- ・転倒後歩行困難となる。低ナトリウム血症による倦怠感・脱力感が出現し、訪問看護を希望。要介護2と認定。
- ・コロナワクチン接種後体調不良。腰部脊柱管狭窄症の既往あり、歩行能力低下がみられたため、通所介護によるリハビリテーションを希望。要支援2と認定。

7 令和4年度の課題

週1回以上外出している人の割合は令和2年度の87.5%から93.4%に増加していることから、コロナ禍以前の活動状況に戻りつつあると思われる。一方で自粛生活の長期化による影響で転倒等をきっかけに日常生活が困難となるリスクが高い状況は続いている。

引き続きサービス未利用者に対する調査を通じて早期にフレイルの危険性について実態把握を行い、早期に必要な支援につなげていく。